

〈セッション〉 『幸福な死』から『異邦人』へ 司会：千々岩 靖子(国際基督教大学教養学部客員准教授)

『幸福な死』における「幸福への要求」あるいはカミュ的認識の「華麗な播種」

ジエイソン・ハーベック

【要旨】

本発表では小説『幸福な死』を取り扱う。若きカミュがこの作品を通じて、生きることへの愛、そしてさらには病气や死についてどのように考察したのかを明らかにする。まず、主人公メルソーが殺人⇨自殺から「あの八時間から解放される生活」に至るまでの道のりを辿る。次に、メルソーの「幸福への意志」を、『シシュポスの神話』の哲学と関連づけたい。最後に、本小説の中心をなす「恐るべき真理」がいかにして生前のカミュに絶えず影響を与え続けていたかが検討されるだろう。

【プロフィール】ジエイソン・ハーベック・ボイシ州立大学(アメリカ合衆国・アイダホ州)フランス語・フランス語圏文学教授、世界諸言語学部長。カ



ミュに関する研究成果に、『作家のトポグラフィ：アルベール・カミュの生涯と作品における空間と場所』(Vincent Grégoire との共編、Brill, 2015)のほか、論集への寄稿 (*Esprit Créateur*, *Présence d'Albert Camus*, *L'Herne Camus*, *The French Review*, *Francophone Postcolonial Studies* など)や、多数の書籍の分担執筆などがある。また仏領アンティルの文学に関心を持ち、とりわけ Evelyne Trouillot、Daniel Maximin、Maryse Condé、Raphaël Confiant、Fabienne Kanor、Patrick Chamoiseau とした作家を研究している。

Evelyne Trouillot の小説 *La Mémoire aux abois* (*Memory at Bay*, University of Virginia Press, 2015) に後書きを寄せているほか、アンティル文学を扱った著作『テキスト構築の真正さ：仏語圏カリブ海における文学と文学的アイデンティティの構築』(*Architextual Authenticity: Constructing Literature and Literary Identity in the French Caribbean*, Liverpool University Press, 2017) を発表している。